平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	基礎学力講座2(国語)(Basic Aptitude Course: Japanese)	授業コード	A028712
担当教員名	津田克巳、太田清子、坂井美穂、杉浦嘉雄、森田和子、安田幸夫、藪内聰和		
配当学年	1	開講期	前期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	これは選択科目ですが、入学時の日本語プレースメントテストで受講対象と判定された学生は必ず履修して下さい。		
受講心得	小型の国語辞典または電子辞書を毎回持参することをすすめます。課題を行うために図書館の書物を活用してください。ノートも用意したほうがよいでしょう。授業中に教科書の練習課題を解いて提出してもらいますので、教科書を持参するのを忘れないこと。		
教科書	丸山顯徳(あきのり)『キャリアアップ国語表現法　十三訂版』(嵯峨野書院)		
参考文献及び指定図書	『三省堂国語辞典　第六版』(三省堂)、江守賢治『漢字筆順ハンドブック　第三版』(三省堂)、小学館辞書編集部(編)『日本語便利辞典』(小学館)、金田一春彦(監修)『手紙の書き方実例辞典』(学習研究社)、『国語力アップ400問』(NHK出版[生活人新書067])、『国語力もっとアップ400問』(NHK出版[生活人新書105])、加納善光『漢字の常識・非常識』(講談社現代新書954)、荒川洋平『日本語という外国語』(講談社現代新書2013)、国広哲弥『新編　日本語誤用・慣用小辞典』(講談社現代新書2033)、川辺秀夫『22歳からの国語力』(講談社現代新書2035)、池上彰『日本語の「大疑問」』(講談社＋α新書6－1　C)、秋月高太郎『ありえない日本語』(ちくま新書524)、金武伸弥『王道日本語ドリル』(集英社新書0428E)、佐竹秀雄『日本語教室Q＆A』(角川ソフィア文庫)、清水義範『日本語がもっと面白くなるパズルの本』(光文社文庫)、樋口裕一『本当に使える！日本語練習ノート』(PHP新書622)、朝日新聞出版(編)『日本語きほん帳』(朝日文庫)、高橋こうじ『クイズで楽しむ日本語のふしぎ』(新水社)、北原保雄『日本語どっち？』(金の星社)。		
関連科目	社会参画入門、社会参画実習1、文章表現基礎講座、英語1・2、情報リテラシー1・2		

授業の目的	基礎的な日本語力はあらゆる学習分野で求められる重要な要素です。大学初年度における日本語教育は4年間の勉学生活の土台を提供するとともに、卒業後の社会人が持つべき一般常識を養う側面をも有します。1年次前期の「基礎学力講座・国語」は大学での勉学に必要な最低限の日本語力の養成を図ることを目的としますが、それは同時にいずれ就職活動を行うに際して必要となるさまざまな種類の日本語表現の基礎となるものです。また、本科目は1年次後期の「文章表現基礎講座」(必修)への前段階としても有用です。
授業の概要	第2週はこの科目のオリエンテーション。半年間の授業で教科書の前半を取り扱います。(後半は担当教員の裁量で自学の課題あるいは提出課題となります。)第3週から第15週まで教科書の「文字表現編」と「文章作成編」とを学んで行きます。毎回、課題の提出があります。第6週～第8週の期間に学修状況の中間確認を行い、学力不足と判定された学生には学期の後半に補講を受けてもらいます。第16週に授業内容についての期末試験を行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： フレッシュマンセミナー・スタートアップ	
第 2 週 ： オリエンテーション 授業の進め方、出欠の取り方、遅刻・早退の取り扱い、試験の行い方、授業中の発表や提出課題の取り扱い、質問の受け付け方法等について説明し、成績評価の方法にも触れます。	復習：伝達事項を確認する。翌週以降、毎回課題提出。
第 3 週 ： 漢字習得の近道	予習：教科書の第1課。
第 4 週 ： 同音異義語	予習：教科書の第2課。
第 5 週 ： 同訓異義語	予習：教科書の第3課。
第 6 週 ： 音訓と熟語／中間確認 中間確認は第3週から第5週までの授業内容に関するもので、十分な結果が得られなかった人には翌週以降に補講(原則水曜4限)を受けてもらいます。	予習：教科書の第4課および第1～3課の再確認。

第 7 週 ： 熟語の構造	予習：教科書の第5課。
第 8 週 ： 四字熟語	予習：教科書の第6課。
第 9 週 ： 仮名遣いと送り仮名	予習：教科書の第7課。
第10週： 文のしくみ	予習：教科書の第8課。
第11週： 文章構成	予習：教科書の第9課。
第12週： 文章の要約	予習：教科書の第10課。
第13週： アイデアの開発	予習：教科書の第11課。
第14週： レトリック	予習：教科書の第12課。
第15週： 慣用表現の誤用	予習：教科書の第13課。
第16週： 期末試験 授業内容についての試験を行います。不合格になった人には夏季休業中の学修（サマートレーニングの提出、補講）を義務づけ、9月中旬に再試験を受けてもらいます。	予習・教科書の第1~~第4~~～15課の再確認。

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	「複数クラス方式」
	（3）アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	常に日本語に積極的な関心を持ち続け、読解力や作文力の修養を志すこと。
【知識・理解】	新聞・雑誌の記事に現れる程度の漢字（熟語を含む）が読め、その意味がわかること。
【技能・表現・コミュニケーション】	誰が読んでもわかるような明快で論理的な文章が書ける基礎を身につけること。
【思考・判断・創造】	日本語の持つ性格や特徴が的確に把握できること。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**10点**	**15点**	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	**50点**	**15点**		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	**5点**			
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	**5点**			

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	提出された課題を評価します。
発表・その他（無形成果）	授業に参加した場合、1回につき1点。